

化学工学実験 混合特性

1)半値幅とピーク高さから面積の概略値を求めることについて

文章で記述するとかえってわかりにくいので、次のような表形式でまとめる。

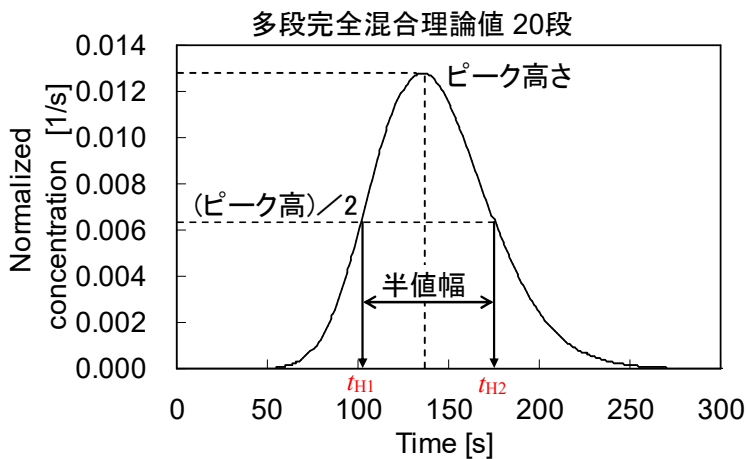
表〇 ピーク高と半値幅から求めたピーク面積の概略値

装置	ピーク高 [1/s]	t_{H1} [s]	t_{H2} [s]	半値幅 [s]	面積(概略値)[-]
3 段かくはん槽 第2段実測					
3 段かくはん槽 第2段理論					
3 段かくはん槽 第3段実測					
3 段かくはん槽 第3段理論					
20 段かくはん槽 実測					
20 段かくはん槽 理論					

t_{H1} [s]: 出力が増加しているときに出力がピーク高さの 1/2 に最も近づいた時刻

t_{H2} [s]: 出力が減少しているときに出力がピーク高さの 1/2 に最も近づいた時刻

半値幅 = $t_{H2} - t_{H1}$



2)実験結果の整理のとき、キャプションで「**模式図**」という用語を使っている人へ。

「模式図」とは、「たぶんこうなるんじゃないか」という意味である。実測値をグラフにしたときには「こうなった」なので、「実測値」という用語を使うこと。